

国立大学法人九州工業大学学長の業務執行状況の確認結果について

令和 7 年 8 月 2 5 日

国立大学法人九州工業大学
学 長 選 考 ・ 監 察 会 議

国立大学法人九州工業大学学長選考・監察会議規程第 3 条第 1 項第 4 号に規定する学長の業務執行状況について確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認の経過

- (1) 令和 7 年度第 1 回経営協議会（令和 7 年 6 月 1 7 日開催）において、学長から「業務執行状況の報告」があり、質疑応答が行われた。
- (2) 経営協議会終了後に、令和 7 年度第 2 回学長選考・監察会議を開催し、業務執行状況の確認方法とスケジュールについて確認が行われた。
- (3) 令和 7 年度第 4 回学長選考・監察会議（令和 7 年 8 月 2 5 日開催）において、学長の業務執行状況について最終的な確認を行った。

2. 確認方法

学長の業務執行状況の確認にあたり、学長による業務執行状況の報告および質疑応答のほか、以下の資料等を参考に行った。なお、令和 7 年度第 2 回学長選考・監察会議において監事も出席し、その意見を反映した確認結果となっている。

（参考資料）所信表明書、令和 6 年度監事監査報告書

3. 確認結果

学長は、大局的な視点でビジョン 2040 を策定し、それを軸としながら、各本部が自らの役割から課題設定し取り組みを進めることで、教育・研究・組織運営の各分野において着実な改革を推進している。特に、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)および大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業(SI 事業)への採択は、大学の強みを的確に示した成果であり、今後の教育、研究、経営基盤の強化に大きく貢献するものとして高く評価される。また、令和 8 年度の改組に向けた教育組織改革や博士後期課程の人材育成支援など、大学の将来を見据えた取り組みも進行中であり、リーダーシップの確かさがうかがえる。これらの成果は「卒業生の充実感を向上させ、あらゆるステークホルダーの満足感を向上させる」という就任時の所信表明書の目標を叶えるものである。

一方、アクションプランの具体性や実現性には課題があり、KPI やマイルストーンなどの数値指標を用いた目標設定と進捗の可視化が求められる。報告内容が「やったこと」の羅列にとどまりがちで、目標達成度や課題への対応、PDCA サイクルの運用が明確に示されていない点は今後の改善点である。

女子学生比率の増加や教養教育の見直しなど、着実な成果も見られ、全体として大学の改革はよく進んでいると評価できる。今後は、少子化など直面する課題に具体性のあるプランで対応しながら、対外的な発信力をさらに高め、地域や社会に対する大学の存在感を一層強く示すことが期待される。